

平成22年 4月 12日現在

研究種目：若手研究 (B)
研究期間：2007 ～ 2010
課題番号：19730202
研究課題名 (和文) 地域人口の長期将来推計並びに人口変動と経済変動の相互関係に関する研究
研究課題名 (英文) Studies on Long-term Population Projection for Regions and the Mutual Relationship between Population and Economic Fluctuations
研究代表者
吉田 素教 (YOSHIDA MOTONORI)
大阪府立大学・経済学部・准教授
研究者番号：60360046

研究分野：財政学、経済政策
科研費の分科・細目：経済学・経済政策
キーワード：将来人口推計、純移動率、ランダム・シナリオ法、人口流出、Gravity model、SUR

1. 研究計画の概要

現在日本は、史上初めて「人口減少社会」に突入しようとしている。そして、当該現象は社会・経済における二つの面、具体的には、人口配置面、財政・マクロ経済面に大きな変化を生じさせるため、今後、当該現象に対応した、街づくり・国土利用政策、社会保障をはじめとする財政政策、並びに、経済成長政策が求められる。

そこで、本研究（平成 19～22 年度予定）では、これら諸政策立案のための基礎資料を提供することを目的として、以下の研究を実施する：(1)足許の社会移動動向を反映した地域人口の長期将来推計、(2)地域間の人口移動に関する要因分析、(3)経済環境要因を考慮した出生率の推定、(4)人口変動と経済変動間相互の影響を考慮した中長期の人口成長・経済成長シミュレーション等。

2. 研究の進捗状況

1の(1)については、分析結果は出たものの、論文にはまとめられていない。1の(2)につい

ては、分析結果を出し、かつ、論文にまとめた。1の(3)については、分析結果を出すに至っていない。1の(4)については、本年度実施予定である。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由)

1の(1)-(4)、それぞれの研究対象の社会における位置は相互関連しているものの、各研究の分析手法は全く異なる。

そのため、各年度の研究は、前年度までの研究の延長線上での研究ではなく、毎年度ゼロからのスタートとなる。また、分析成果は出したものの、論文にまとめあげる時間が十分に取れていない。

4. 今後の研究の推進方策

今年度は研究の最終年度である。

そのため、過去3カ年度での分析の蓄積をなるべく生かす方法により、1の(4)の研究を遂行したい、と考える。

特に、分析結果を論文化する時間をできるだけ確保したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

Yoshida, M (2010) "Determinants Analysis

of the Out-migration between Prefectures
in Japan: From Socio-economic and Local
Administration and Finance Standpoints,”
*Discussion Paper New Series (Osaka
Prefecture University)*, No.2009-7. (査読無)